

平成 29年度（28年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	家庭系ごみ有料化事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	家庭系ごみのより一層の減量・資源化、ごみ処理にかかる負担の公平化、ごみに責任をもつ社会の実現を目指し、平成16年10月から、定期収集家庭ごみのうち、「燃やせるごみ」「破碎ごみ」について、大(40リットル相当)・中(30リットル相当)・小(20リットル相当)、特小(10リットル相当)の4種類の有料指定収集袋による回収を開始した。また、平成28年10月から、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上を目指し、従来の4種類に5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類での運用を開始した。		
29年度概要	この家庭系ごみ有料化事業の実施にあたって、5種類の有料指定収集袋を活用し、その製造、収納事務(スーパーなどの店舗における一般廃棄物処理手数料収納事務)及び配送・在庫管理に関する事務を行う。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全家庭
意図(どのような状態にしたいか)	各家庭がごみを排出する際に、有料指定収集袋を購入し、使用してもらう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H26	H27	H28	H29	中期目標 H30
有料指定収集袋作製枚数(特小換算)	枚			47,400,000	45,900,000	43,000,000

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H26	H27	H28	H29	中期目標 H30
有料指定収集袋使用枚数(特小換算)	枚	目標値			47,400,000	45,900,000	43,000,000
		実績値			43,877,750		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)	0000000	(目標達成度)					(達成度) 107.4%
家庭ごみの減量化に伴い、袋の作製・使用枚数は減となる。なお、平成28年度の目標達成度は、107.4パーセントであった。		(目標達成度)					35点
成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H26	H27	H28	H29	中期目標 H30
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)		(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成 26年度(決算)	平成 27年度(決算)	平成 28年度(決算)	平成 29年度(予算)
トータルコスト	[円]	160,711	195,287	194,869	198,007
(事業費)	[円]	155,544	189,145	187,803	190,941
(職員人件費)	[円]	5,167	6,142	7,066	7,066

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

平成28年10月から従来の「大」、「中」、「小」、「特小」の4種類に、新たに、5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類で運用を開始し、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性が向上した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

平成28年度に超特小を導入し、「大」、「中」、「小」、「特小」、「超特小」の5種類とした指定収集袋を活用した、家庭系ごみ有料化事業の円滑かつ適正な運用を継続することにより、引き続き、家庭系ごみの減量・資源化を推進する。